ゲンロク 2019年10月号（毎月26日発売）
8月26日発売 No.404 第34巻第10号

Car Entertainment Magazine

GENROQ

［ゲンロク］

2019 OCT No.404 10
定価 980Yen

Porsche New 911

新型ポルシェ911 徹底検証

タイプ992国内初試乗

［その進化を知る］Type992 vs Type991
［最強ポルシェの実力］935／911GT2 RS CS／ケイマンGT4 CS
［55年間の軌跡］歴代911比較インプレッション

［THE BATTLE］
メルセデス・ベンツGLE450 vs BMW X5
ベントレー・コンチネンタルGT vs コンチネンタルGTコンバーチブル

新型マカンS & マカンの真価

［SUPER TEST］BMW M5コンペティション

ポルシェ特選ショップ

REPORT●中三川大地(Daichi Nakamigawa) PHOTO●白谷 賢(Ken Shiratani)

LEAP DESIGN Lamborghini Urus

ジャパンの流儀に則って 躍動するスーパーSUV

路面状況やシチュエーションを問わず、いつでもどこでも超絶なスーパーカーでいられる存在こそが、ランボルギーニ・ウルスなのだろう。メーカー自身も〝スーパーSUV〟という、ド直球のキャッチコピーを与えて訴えている。

そんな万能選手だからこそ、そこにアレコレと手を加えて、かつスマートに着こなし乗りこなすのは難しい。市場に投入される個体の増加と共に、カスタムアプローチは増えるいっぽうだが、中でもとりわけスマートにまとめてきたのがリープデザインだった。老舗オオハタ自動車がプロデュースする純国産のボディパーツブランドである。

かねてよりランボルギーニやフェラーリなどスーパースポーツ系を筆頭に、ベントレーやマセラティなど個性派ハイエンド系に対してさらなるスパイスを加えてきた。いずれもオリジナルのデザイン性と世界観を尊重し、そっと己が思い描いた個性をオントップする感覚が魅力だ。

今回、登場したウルスもそうした路線だと思う。投入されたのはフロントリップスポイラーにフロントダクトカバー、サイドステップ、そしてリヤハーフスポイラーという4点のみ。鋭利でボリューム感のある純正のスタイリングに対して、リープデザイン流でスーパーSUVっぽさを高めているように思える。

そうしたコンプリートカーに対して、組み合わされたホイールが面白い。こちらもスーパースポーツの世界ではすっかり定番となったハイパーフォージド製ホイール。それもHF-C7を持ってきたのだ。

思えばHF-C7がデビューしたのは2010年後半と、来年には10年選手となるロングセラーモデルだ。その造形はホイール界の普遍的スタイリングである7交点スポークであり、当時としては斬新だったコンケーブを強調させたモデルとして話題を集めた。そして今もなお、HF-C7の鮮度は少しも衰える気配がない。コンケーブ云々に限らず、それだけ完成されたデザインを持っていたと、改めて気づかされる。

このウルスに投入されたのは、主にSUV向けに設定される24インチだ。正確にはフロント10・5J、リヤ12・5Jの24インチで、いずれもセミコンケーブとなる。ひと昔前ならまるで飛び道具のように巨大に思えた24インチだが、ウルスの持つサイズ感に加え、リープデザインのエアロパーツによってさらにボリュームが増した体躯に組み合わせると、ごく自然にフィットする。ゴージャス一辺倒のドレスアップホイールではなく、あくまでウルスの性能と世界観を底上げするかのような、機能パーツの雰囲気である。

黒基調で統一させたコーディネートも一役買っている。正確にはディスク面はブラッシュド・アナダイズド加工、リムはアナダイズド加工が施された上でのブラックだ。鍛造っぽさが引き立つ、その特殊な艶なしの黒色がボディの随所に備わるカーボン地や、同様に黒く落とし込まれたフェンダーやモール類と調和する。とりわけ24インチの大きさを強調させることなく、むしろ華やかな雰囲気をわざと隠した硬派っぽい仕立てなのに、そこにどことなく色気を漂わせるから不思議だ。

リープデザインとハイパーフォージド。彼らのコラボは、さらにパワークラフトのハイブリッドエキゾーストシステムを組み合わせることで完成する。全体のトーンに合わせたブラックテールの美しさもさることながら、サウンドや出力性能の面から、ウルスの魅力を底上げする。

こうしたジャパンメイドのアフターパーツブランドがいれば、ウルスの人気はますます高まりそうである。彼らはウルスを、純正よりもさらに絶対的な〝スーパーSUV〟へと高めている。そして、それは決して一発芸的なカスタムではなく、時間軸を超越した魅力が宿るはずだ。あらゆるハイエンドカー世界でのHF-C7のロングヒットが、普遍的な魅力を見事に証明している。

黒く落とし込まれたフェンダーやボディパーツと調和するようにハイパーフォージド「HF-C7」の24インチが装着される。ブランドのホワイトレターが刻まれたタイヤは、ブレデシュタイン製「Ultrac Vorti」。サイズはフロント295/30R24、リヤ355/25R24だ。

PARTS LIST

HYPER FORGED HF-C7 "24inch SUV"

24インチ(9.0J～14.0J)	29万5000円～

※価格は税別。

PARTS LIST

LEAP DESIGN URUS

フロントリップスポイラー	35万8000円(カーボン)／27万8000円(FRP)
フロントダクトカバー	9万8000円(カーボン)
サイドステップ	33万8000円(カーボン)／25万8000円(FRP)
リヤハーフスポイラー	39万8000円(カーボン)／28万8000円(FRP)

※価格は税別。

鋭利な表情を強調させるリープデザインのボディパーツ。前後のスポイラーのほか、フロントダクトカバー、ドア部分に装着される分割式のサイドステップで構成される。カーボンのほかFRPも用意されるので、色分けを含めたコーディネートは悩ましい。

問い合わせ／ハイパーフォージド ☎072-256-6664 http://www.hyperforgedwheels.com